

# 虚子記念文学館投句特選句

・令和七年十二月

稻畑廣太郎 選

散る紅葉未練のこころ風に乗せ

京都 西村やすし

記念樹も見事枯木に目立つ句碑

新潟 安原 葉

星影を鎮めし。ポンセチアの緋

兵庫 中村恵美

舞違へどつと沸きたる里神楽

鳥取 前田 千

星ひとつ借りて聖樹となりにけり

神奈川 金子三奈乃

まづ虚子の机拭き上げ年用意

兵庫 藤井啓子

古暦最終章も厨にて

兵庫 西村みどり

煤逃の土産奈良漬買うて来て

大阪 立入宮子

冬晴や光集めるカテドラル

大阪 深森明鶴

星型のライトをつける冬の本

滋賀 太田 慈  
(青少年)





皆は寝て独り茶の間の初笑	何事もなくてタベの河豚の味
つるりんとむける冬至のゆで卵	つるりんとむける冬至のゆで卵
交差点師走の路辺迷い鳥	交差点師走の路辺迷い鳥
後ろから突き上げらるる古曆	後ろから突き上げらるる古曆
初雪や母の豚汁ほの甘く	初雪や母の豚汁ほの甘く
冬の蠅こゑかけ合ひてゐるやうな	冬の蠅こゑかけ合ひてゐるやうな
聖夜の音静かな笑みの六地蔵	聖夜の音静かな笑みの六地蔵
国宝の二階に見ゆる冬薔薇	国宝の二階に見ゆる冬薔薇
重箱の四隅を拭ひ年用意	重箱の四隅を拭ひ年用意
父を打つ子にやつてくるクリスマス	父を打つ子にやつてくるクリスマス
極月や水音立てて壁洗ふ	極月や水音立てて壁洗ふ
年の暮油の匂ふベレー帽	年の暮油の匂ふベレー帽
おでん酒壁の色紙は裕次郎	おでん酒壁の色紙は裕次郎
寒朮の星ふるはせて近づけり	寒朮の星ふるはせて近づけり
湯氣立てて独居の朝は鼓動せり	湯氣立てて独居の朝は鼓動せり
寒晩の梵鐘の音の硬さかな	寒晩の梵鐘の音の硬さかな
閉店の貼り紙はがれ冬の雨	閉店の貼り紙はがれ冬の雨
歳末セールゆつくりと人ながれ	歳末セールゆつくりと人ながれ